

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	タテミヤ 建宮	ツトム 努	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、企業活動の意志決定に寄与するファイナンスの知識を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>① ファイナンス論を身につけることで、他の経営コア科目を理解するために必要な、企業の今と未来の財務的意思決定の力が身に着けられ、より深く立体的に理解することができる。</p> <p>② 不確実な未来を予測するための理論モデルを学ぶことで、日常発信される経済、経営、社会ニュースの本質を考えることができ、自らの次の行動の意志決定に活かせる</p> <p>低成長時代の企業のファイナンス戦略に関する考え方を、従来型の視点やニュースの文言にとらわれず、批判的な視点を持って自ら考えられるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 企業経営に必要な、資金の調達・運用に不可欠なファイナンスに関する専門性を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学習者がファイナンスに関する知識を列挙し、関連付けて理解する (知識)</p> <p>② 学んだ知識を活かして具体的な企業の事例を測定し、対象企業に対する自らの考えを形成できる。また自らの仕事の意思決定にも活用できる (技能)</p> <p>日々受け取る経済・経営情報から、ファイナンス的な視点をベースにしたコミュニケーションができ、経営の未来の予測に対してより立体的な議論に参加できる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学習時間・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する (自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】</li> <li>・学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿を作成する (自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】</li> <li>・より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場 (ディスカッション) となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する (自主研究・レポート作成・ディベート, SBO②③④) 【15時間/レポート1本】</li> <li>・合計で1レポート当たり 45時間程度を要す</li> </ul>		
スケジュール	<p>提出期限までに何度か manaba folio を使って、考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初稿を提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限(提出期限1か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio を使って連絡すること。また、最終稿は学事歴で定められた日までに提出すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか (加点項目)
	観察記録	20 %	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 途中稿提出期限 (最終提出1か月前) が守れているか (減点項目)
履修者への要望	<p>グローバル経営 (MBA) 部門のコア5科目の一つであり、他の科目 (グローバル経営戦略論特講、ファイナンシャルアカウンティング論特講、マーケティング論特講、人材マネジメント論特講) と合わせて履修することが望ましい。</p> <p>履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員 (建宮) に連絡すること</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院 教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』 (ダイヤモンド社、2009年) ISBN-13: 978-4478008768 2,800円+税
	前期は、基本的なファイナンス理論の基本を理解し、その思考方法を身につけることを目指した。過去の結果である会計と異なり、未来を予測するための意思決定ツールであるファイナンスの基本を身につけることで、日々得られる情報から得られる気づきをより高度化する。
参考図書	石野雄一『道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2005年）2,400円+税
履修上のポイント	前期は、ファイナンスの基本的な視点、考え方を身につけ、具体的な日々の経営的な課題解決、ディスカッション等の中で活用できる下地をつくることを目指した。基本教材1の例題、事例などに取り組むとともに、参考図書で示した書籍にはダウンロード可能な事例を解説するためのエクセルシートが付録で提供されているので、より効率的な理解に活用して欲しい。
レポート課題 1	事業の経済性を評価するための基本的な概念である「キャッシュフロー」について具体的な算出方法を説明するとともに、キャッシュフローの算出においてはなぜ埋没コスト（サンクコスト）をカウントしないのかについて、テキスト内事例および他の具体的な事例を用いて説明せよ。 <b>留意点：</b> 基本教材1の第二章を参考に、ファイナンスの基本的な視点を身につける。
レポート課題 2	資本コストの定義式であるWACC（加重平均資本コスト）および、その要素である株式への期待リターンを導くCAPM（資本資産価格モデル）について説明せよ。 <b>留意点：</b> 基本教材1の第五、六章を参考に、ファイナンスの基本的な考え方を身につける。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 朝倉佑介 教材名： 『ファイナンス思考－日本を蝕む病と、再生の戦略論』 (ダイヤモンド社、2018年) ISBN-13: 978-4478103746 1,800円+税
	前期に習得したファイナンスの基本的な考え方をもとに、ファイナンス思考を活かして成長を果たした企業事例を学びつつ、今後の立体的な経営ディスカッションの中で活かせる視点を身につける。教材の視点はやや一面的な部分があるため、批判的な視点も維持しつつ学習をすすめることが望ましい。
参考図書	田淵直也『ファイナンス理論全史－儲けの法則と相場の本質』（ダイヤモンド社、2017年）ISBN-13: 978-4478103753 1,800円+税
履修上のポイント	基本教材2は前期に学んだファイナンス理論の基本、考え方が具体的に活かされている企業事例を学ぶことで、新しい企業経営の方向性を学ぶとともに、従来型の会計重視の経営意思決定が持つ問題とそれを取り巻く環境の問題などを知るためのきっかけである。学習者は本書にとどまることなく、さらに具体的な事例を探索し、考察することが望ましい。参考図書は、アカデミックな論を展開する場合に不可欠な歴史的な視点を補足するために示した。
レポート課題 1	基本教材2第三章「ファイナンス思考を活かした経営」で示される企業の中から1社以上を選び、どのような企業行動にファイナンス的な思考が活かされているのかを整理し、従来の会計結果重視型の思考と比較しつつあなたの考えを論述しなさい。 <b>留意点：</b> 基本教材2の考え方をうのみにせず、批判的な視点も含めて論述することが望ましい。
レポート課題 2	前期、後期を通じて得られたファイナンスの基本的な知識、視点を具体的に活用できる状況を検討し、身に付けた知識、視点からどのような効果が期待できるのかについて論じなさい。 <b>留意点：</b> ファイナンスの知識、視点は、日々の意思決定活動に活かしてこそ身に付くものです。まず小さな活かせる状況を具体的に想定し、得られた知識、視点を具体的に活用できるよう想定してください。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 1 に基づく学修①（ファイナンスの基本）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 1 に基づく学修②（キャッシュフロー 1）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（キャッシュフロー 2）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（現在価値）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（リスク）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（リスクとリターン）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（資本コスト）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（バリュエーション）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（企業価値）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（財務政策）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の間に係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 2 に基づく学修①（PL 脳の問題）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 2 に基づく学修②（ファイナンス思考－1）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（ファイナンス思考－2）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（ファイナンス思考を活かした経営－1）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（ファイナンス思考を活かした経営－2）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（ファイナンス思考を活かした経営－3）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（ファイナンス思考を活かした経営－4）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（PL 脳症例－1）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（PL 脳症例－2）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（なぜ PL 脳に陥るのか）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の間に係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する